

# 学ぶ意欲を培う生活科の創造

—子どもの振り返りを支援や評価に生かしながら—

高知市立昭和小学校 教諭 竹崎 澄子

現在、子どもの学ぶ意欲を育てることは教育の重要な課題であるといわれている。そこで、学ぶ意欲を培う生活科の授業を構築するために、子どもたちの振り返りに視点をあて3種類の振り返りの場を含む【振り返りに視点をあてた問題解決的な学習の基本的な流れ】を考えた。それを授業に取り入れながら支援や評価を工夫することで、子どもたちは活動に関する自分の願いを実現し、活動を通して学ぶという学び方が身に付き、知識を獲得し、自信をもち、学ぶ楽しさを味わうことができた。そして、それらが子どもたちの学ぶ意欲の要素となった。

キーワード：学ぶ意欲、生活科、振り返り、自己評価、問題解決的な学習

## 1 はじめに

現在、学校教育はその在り方に関して多くの課題を指摘され、改善が求められている。「新しい義務教育を創造する」（中央教育審議会答申 平成17年10月26日）において、「学ぶ意欲や生活習慣の未確立、後を絶たない問題行動など義務教育をめぐる状況には深刻なものがある。」と指摘され、それ以降も引き続き、同審議会においても子どもの学ぶ意欲については協議されている。そして、これまでの教育実践を振り返ってみると、子どもの課題として、興味・関心はあるけれど根気よく学ぶことが苦手であること、身近な事象とかかわる意欲や能力が十分ではないことが浮かんできてくる。このような状況から、生活科において子どもの学ぶ意欲を培うことの必要性を痛感した。生活科は直接的な体験や具体的な活動を通して学ぶ教科であり、その生活科を通して培われた学ぶ意欲は「確かな学力」や「生きる力」の基盤となる要素の一つであると考えからである。

今まで行ってきた生活科の実践では、活動や体験の後、子どもたちが振り返りカードに気付きや思いを表すことは継続的に行ってきたが、その内容についての教師が見取りが十分ではなかった。また、生活科の学びの過程における振り返りが子どもにとって主体的なものになっていなかったことを反省する。生活科における振り返りの重要性については、「小学校学習指導要領解説生活編」（文部省平成11年5月）で「直接体験を重視した学習では、その活動を振り返ってとらえ直すことが必要である。一中略一児童は生き生きと楽しく活動する中で、様々な知的な気付きをしている。一中略一児童が生み出した知的な気付きを自覚させる活動が必要になる。それによって、活動や体験をしたことが、その後の学習や生活に生かされるのである。」と示されている。しかしながら、生活科の今日的な課題の一つとして「指定校などの調査によると、学習活動が体験だけで終わっていること」が示されている。

（「中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会生活・総合的な学習の時間専門部会（第8回）議事録（平成18年7月19日）

以上のような学校教育における課題、生活科に関する自分の反省や今日的な課題をふまえた上で、子どもの振り返りを支援や評価に生かしながら学ぶ意欲を培うことを目指して、研究に取り組むことにした。

## 2 研究の目的

子どもが振り返りを後の活動に生かしながら、自分の思いや願いに向かって意欲をもって活動を続け、深めることができるような授業を構築する。そして、それに関する教師の支援や評価、子ども自身による評価の存り方を明確にししながら工夫、改善をする。また、これらを通して子どもの学ぶ意欲を培う。

### 3 研究仮説

生活科の学びの過程（問題解決的な学習の過程）において、振り返りの場（①活動への見通しをもつ場、②活動内容や気づきを整理する場、③活動内容や気づきを伝え、交流する場）を設定し、支援や評価（表出された子どもの思いや気づきを見取ること、子どもの活動に合う支援を行うこと、自己評価や相互評価を行うこと、見取ったことや評価したことを子どもにフィードバックすること）を工夫することで、子どもは体験や活動を通して学ぶという学び方が分かり、自信をもち、「学ぶことは楽しい」と感じるができるだろう、そして、そのような活動を連続的に行うことで、子どもの学ぶ意欲を培うことができるだろう。

### 4 研究内容

#### (1) 学ぶ意欲について

文献による研究をふまえ、「子どもが〇〇したいという思いや願いをもち、実現するために行動しようとする心や態度であり、持続性を伴うものである」と定義して、研究を進めた。

#### (2) 【振り返りに視点をあてた問題解決的な学習の基本的な流れ】について

子どもが自分の思いや願いに向かい、振り返りを生かしながら意欲的に活動を続け、深めることを目指して、生活科の学びの過程に問題解決的な学習を取り入れ、【振り返りに視点をあてた問題解決的な学習の基本的な流れ】(図1)を設定した。これは、子どもたちが身近な事象とのかかわりから抱いた「〇〇したい」という活動への願いを教師もそれぞれの子どもの問題として捉え、具体的な活動や体験を通してその問題を追及していくような学習の流れである。

これは、一単位の時間の流れではなく、子どもの問題解決的な学習における意識を示したものであり、この学習が連続的に行われることで、子どもは身近な事象とのかかわりから抱いた願いを実現できると考える。そして、3種類の振り返りの場の目的を明確にもち、子どもの思いや活動の状況に合わせて効果的に取り入れることで、子どもが主体的に振り返ることができるようにする。そして、見つけカードや振り返りカードに表された子どもの気づきや活動の状況を見取り、その内容をもとに個人票を作成し、子どもの活動内容、支援や評価に生かすことなどにより、研究テーマに迫ることとした。

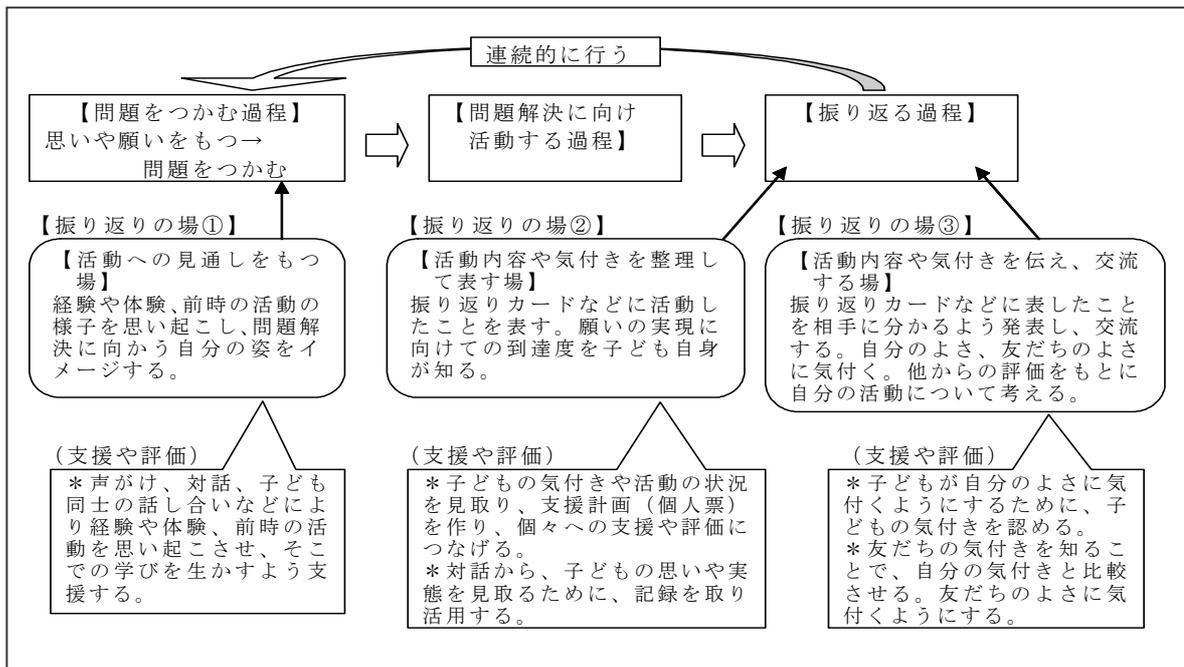


図1 【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】

(3) めあて・振り返りカードの活用、個人票の作成

子どもが【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】に沿って主体的に取り組むために、図2のような振り返りカードをそれぞれの活動内容に合わせて作成した。これは主に3つの内容（活動のめあて、根気よく活動することの自己評価、活動に関する感想）で構成している。基本的な活用方法は、子どもたちが【活動への見通しをもつ場】で決めためあてをこれに書き、それに向けて活動し、活動後は【活動内容や気づきを表す場】で自己評価を含む感想を表し、必要に応じ、【活動内容や気づきを伝え交流する場】で発表し合うものである。

また、この振り返りカードは、一人一人に合う支援と評価をするための資料として捉えた。ここに書かれた内容から子どもたち一人一人の活動の状況を見取り、個人票を作成し、次の支援内容を予測したり、それぞれの思いや気づきを見取り、教師が評価したり、価値づけたりして子どもに返すことにより、活用することとした。なお、個人票に関しては、「5 検証授業」の項で詳細を述べる。

(4) 生活科に関する意識調査

生活科の学習についての意識調査を在籍校の第2学年児童85名を対象とし、質問紙法により7月に実施した。その結果、「好きではない」と「あまり好きででない」子どもが生活科全体については18%であるのに、振り返りについては33%いることから振り返りに関する学習は子どもにとって好きな学習ではない傾向があることがわかった（図3、図4）。また、生活科を好きな理由としては、「野菜作りが好き」「もの作りが好き」「いろいろな人に会えるから」というものが多かった。この分析と考察を通して、振り返りの場を子どもが楽しく主体的に取り組むことができるものにしながら子どもの思いを活動内容に生かす必要があると考えた。

**ふりかえりカード③**

月 日 2年 組 名前 ( )

**\*今日のめあてを書きましょう。**

( )

今日の学しゅうをふりかえりましょう。

1 じぶんのめあてやグループのめあてをもって、こんきよくかつどうできましたか。

- ・( ) よくできた
- ・( ) できた
- ・( ) あまりできなかった
- ・( ) できなかった

2 友だちとなかよく、力を合わせて、こんきよく、自分たちのお店のじゅんぴをしようとがんばりましたか。

- ・( ) よくできた
- ・( ) できた
- ・( ) あまりできなかった
- ・( ) できなかった

3 楽しかったこと、うれしかったこと、くふうしたこと、こまったことなどを書きましょう。

( )

4 こんどの時間はどんなことをめあてにしてやりたいか、書きましょう。

( )

図2 振り返りカード

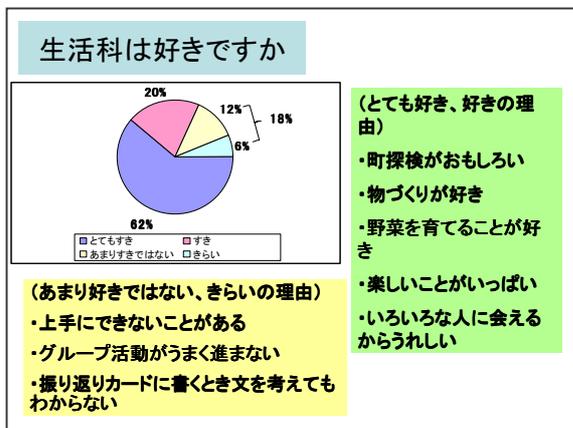


図3 意識調査

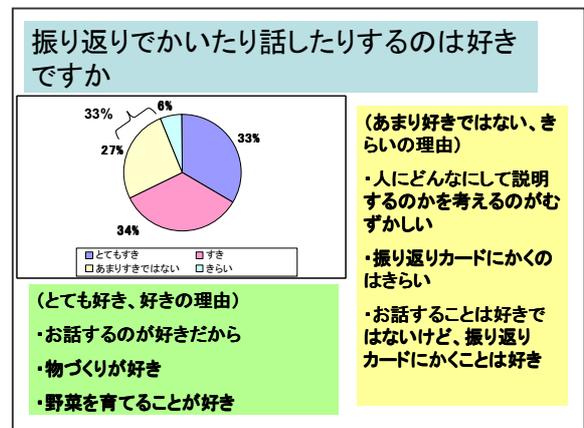


図4 意識調査

5 検証授業

(1) 単元の概要

7月に実施した意識調査から見取った子どもたちの願い（色々な人に会えるから生活科が好き、もの作りが好き）といった思いを踏まえ、単元「みんなで作ろう、秋のフェスティバル」を設定した。本単元は、小学校学習指導要領解説生活編の内容(5)(6)にかかわって設定したものである。子どもが校庭や丸池公園などで秋を体感し、秋の特徴について気付くこと、秋の自然物や身近な廃材を使って玩具を作り、幼児などを招待して相手意識をもちつつみんなで遊びを楽しむことをねらった。この学びの過程に【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】を取り入れ、支援や評価を工夫することにより、子どもの学ぶ意欲を培うこととした。

(2) 単元の評価規準

子どもの振り返りを重視し、一人一人にきめ細やかな支援をするために、表1に示すように単元の評価規準を作成した。

(3) 単元の活動計画及び評価計画

表2に示すように単元の活動計画及び評価計画を作成した。また、各授業で子どもが活用した振り返りカードをもとに個人票（表3）を作成し、個々の実態にあう支援を予測しながら行うこと、個人票から子どもの気付きを見取り評価し、価値付けて子どもに返すことを単元全体を通しての支援や手立てとした。なお、主な学習活動のうち、授業例①②③④については次の「(4)効果的な振り返り」の項で詳細を示す。

表3 校庭秋探しの個人票

個人番号	校庭秋探し	丸池公園に関する予想
1	中庭：紅葉、赤や黄色にかわってきている、他にも赤い葉*もう秋だなあ*何かつくりたい。西門：赤い葉、もつと赤くなってほしい。	色々な秋の植物があると思う。
2	運動場：赤い葉。畑：三つ葉のクローバ。アメリカンハナミズキ。*また行きたい前庭：葉が赤いアメリカンハナミズキ。黄、茶、黄と茶が混じた葉。運動場：実のついた草。*見つけてうれしい。またしたい。	風で葉が色々な色にかわっている。
3	前庭：葉が赤いアメリカンハナミズキ。黄、茶、黄と茶が混じた葉。運動場：実のついた草。*見つけてうれしい。またしたい。	はっぱが落ちていたりパタがいっぱいいる。
4	ロータリーでクスノキの赤い葉	葉が赤とか黄色になっている。
5	みかん門の前：いちよう*春や夏は緑だけど秋になると黄色になるのかな。さわたらするずる、きれいな、仮面とか作れそう。	はっぱがかわつたり風が涼しくなっている。

表1 単元の評価規準

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
内容のまとまりごとの評価規準	☆身近な自然を観察したり季節や地域に行事にかかわる活動をしたりしようとしている。 小学校学習指導要領生活 内容(5)	☆四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。 小学校学習指導要領生活 内容(5)	☆四季の変化や季節によって生活の様子が変わることについて気付いている。 小学校学習指導要領生活 内容(5)
単元の評価規準	・校庭や丸池公園など身近な自然、人々の生活の変化の様子に関心を持ち、季節に合った遊びを楽しもうとする。	・校庭や丸池公園など身の回りの自然物を使って遊ぶ物を作ったり、遊び方を工夫したりしてみんなで楽しむとともに遊びの楽しさや秋の楽しみ方を表現することができる。	・校庭や丸池公園など身近な自然や友だち、町探検でお世話になった人々、下知保育園の園児などにかかわり、秋のフェスティバルをすることを通して、身近な人とかわることのよさや、自然や生活に見られる季節の変化に気付いている。
小単元ごとの評価規準	①校庭や丸池公園など身の回りの秋に関心を持ち、木の葉や実、草、虫などを探そうとしている。 ②秋のフェスティバルに出す自分の店や友だちの店、招待する身近な人々に関心を持ち、友だちとかかわりながら秋のフェスティバルの準備をし、みんなで秋のフェスティバルを楽しもうとしている。 ③活動を振り返り、自分や友だち、身近な自然について考え、振り返って分かったことを次の活動に生かそうとしている。	①身の回りの秋を探したり、見つけた秋について、校庭マップやお知らせカードで表したり、発表することができる。 ②身の回りの自然物を使って遊ぶ物を作ったり、みんなで楽しむために遊び方を工夫したり、招待状を作ったりすることができる。 ③振り返りの場を通して、活動内容や自分、友だちのよさについて考えたり、表したりすることができる。	①身の回りの自然について秋の特徴に気付いたり、季節によって自然の様子、自分たちの遊びや生活が変わることについて気付いている。 ②身の回りの自然やものを使って遊ぶものを作り、友だちや地域の人とかわりながら遊んだら楽しいことに気付いている。 ③自分のよさや友だちのよさ、身近な人とかわることの楽しさ、季節の変化を生活に取り入れることの楽しさに気付いている。

表2 活動計画及び評価計画

活動名	時間	主な学習活動	評価規準	評価方法	教師の主な支援
第一次 秋をさがそう	6	○校庭で秋さがしをする。(2) <b>授業例①</b> ○丸池公園で秋さがしをする。(2) ○身の回りで見つけた「秋」をコンピュータを使うなどして表現する。 (2) <b>授業例②</b>	ア-① イ-① ウ-① ア-③	行動観察 対話 見つけカード 振り返りカード 作品	◎夏の身近な自然の様子に関する写真を見せて話しあうことで思い起こさせ、今の様子と比較できるようにする。 ◎自己評価や相互評価を取り入れて、相手によく分かるような表現を工夫できるようにする。 ◎個々の振り返りカードをもとに個人票を作成し、個々の実態に合う支援を心掛ける。
第二次 みんなで秋のフェスティバルをしよう	11	○お客さんを招待して秋のフェスティバルを行うために計画・準備をする。(3) ○お客さんへの招待状を作る。(1) ○秋のフェスティバルの出し物について学級の友だちと交流し、相互評価を行い、工夫を加える。(2) <b>授業例③</b> ○学校の先生を招待して、2年生全体で秋のフェスティバルを行う。相互評価を行い工夫を加える。(2) ○地域の人、家族、保育園児などを招待して、秋のフェスティバルを行う。(2) ○秋のフェスティバルに関する活動全体について振り返る。 (1) <b>授業例④</b>	ア-② ア-③ イ-② イ-③ ウ-② ウ-③	行動観察 対話 見つけカード 振り返りカード 作品	◎振り返りカードやめあてカードを活用し、個々の活動への願いを明確にして取り組むことができるようにする。 ◎主体的に活動できている子どもは賞賛することで意欲を持続することができるようにする。つまづいている場合には共に原因を考えたり活動したりして励ます。 ◎友だちのよさを認められるよう、アドバイスカードにその視点を示す。 ◎振り返りカードを発表させたり、個々の頑張りやその場で褒めることで、自分のよさや成長に気付くことができるようにする。 ◎振り返りを次に生かすために、見つけカードや振り返りカードなどをファイルして子どもが必要に応じて自分の活動に関する情報を得ることができるようにする。 ◎個々の振り返りカードをもとに個人票を作成し、個々の実態に合う支援を心掛ける。

(4) 効果的な振り返り

子どもの学習の段階に応じて振り返りの場の存り方を工夫した。第一次では子どもが主体的に楽しく振り返ることをねらい、写真資料を活用し、表現活動を工夫した。第二次では、子どもが「秋のフェスティバル」に向けて友だちとかかわり、自己評価や相互評価を生かし、意欲をもって玩具に関する工夫を重ねることをねらいとした。そのねらいにそって構築した4つの授業の特性を図5に示す。

そして、各授業で、振り返りカードを子どもも教師も活用した。子どもはめあてや自己評価、感想を書き表し、教師は子どもの記述から個人票を作成し、支援や評価を生かした。以下、(題材名) (ねらい) (授業の概要) を示す。図6は(④単元全体を振り返る授業)で子どもが振り返りカードに表した文章である。子どものやり遂げたという達成感、自分自身や友だちへの気付きを見取ることができる。

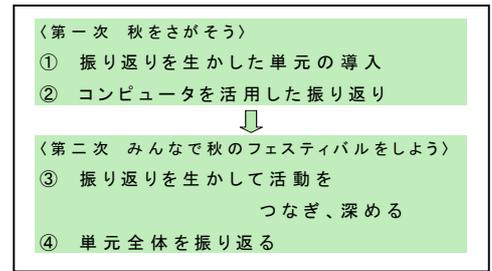


図5 振り返りを生かした授業

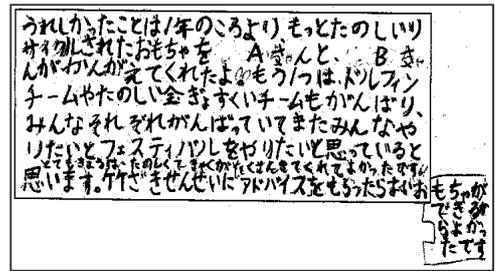


図6 子どもの思いや気付き

① 振り返りを生かした単元の導入

(題材名) 校庭で秋探しをしよう

(ねらい) 振り返りの場で、前の体験や活動を思い出しながら秋への興味・関心を抱き、秋探しの活動を楽しみ、秋の自然の特徴に気付く。

(授業の概要)

学習の流れ	【問題をつかむ過程】	【問題解決に向け活動する過程】	【振り返る過程】	
	活動への見通しを持つ		活動内容や気付きを整理して表す	活動内容や気付きを伝え交流する
主な学習活動	夏の頃の校庭の写真を見て夏の体験や活動を振り返りながら今の校庭の様子を予想した。それぞれ「前庭で木の葉を調べたい」といっためあてを決め、秋への関心をもった。	校庭で秋探しを行った。その間、子どもたちは自分が見つけた秋についてメモしながら活動を進めた。	自分が書いたメモを読んで、校庭の秋探しに関して振り返りながら見付けカードを書いた。	グループで見つけカードを読み合った。そして各グループで校庭の地図に見つけカードをはり、「秋の校庭マップ」という作品を仕上げた。

② コンピュータを活用した振り返り

(活動名) お知らせカードを作ろう

(ねらい) 前に行った丸池公園での秋探しの活動について、お知らせカード作りを通して振り返る。二人組で友だちと交流しながら作品を仕上げることにより、それぞれの秋に関する気付きを整理したり、深めたりする。

(授業の概要)

学習の流れ	【振り返る過程】	
	活動内容や気付きを整理して表す	活動内容や気付きを伝え交流する
主な学習活動	最初に、教師がそれぞれの子どもが校庭や丸池公園で見つけた秋のことを個人票を踏まえながらクラスみんなに簡単に紹介し、「たくさん秋を見つけたから誰かに知らせよう」となげかけた。それをきっかけにして、子どもたちはお知らせカード作りに関して意欲をもち、知らせたい相手を考えながら活動を始めた。まず、コンピュータの画面上で自分たちが丸池公園で撮った写真を見て友だちと話し合いながら好きな写真を2枚選んだ。そして、秋探しに関する思いや気付きを文章で表し、お知らせカードを仕上げた。	

③ 振り返りを生かして活動をつなぎ、深める

(題材名) お試しフェスティバルをしよう

(ねらい) 友だちが作った玩具で遊び、その感想をお互いに伝え合う。そして、友だちからの感想や自己評価を生かして新たな問題を見だし、玩具に関する工夫を重ねる。

(授業の概要)

学習の流れ	【問題をつかむ過程】	【問題解決に向けて活動する過程】	【振り返る過程】		【問題をつかむ過程】	【問題解決に向けて活動する過程】	【振り返る過程】
	活動への見通しを持つ		活動内容や気づきを整理して表す	活動内容や気づきを伝え交流する	活動への見通しを持つ		活動内容や気づきを整理して表す
主な学習活動	前時の活動内容を振り返りながら、今日の活動のめあてを決めた。	他のグループが作った玩具で遊ぶ。  「玩具で遊ぶ→感想を表す」という一連の活動を繰り返した。	玩具で遊んだ感想をメッセージカードに表す	グループで友だちが書いてくれたメッセージカードを読み合った	玩具をもっとよくする工夫について、前時の友だちからの評価、自己評価を参考にし、グループで話し合っめてめあてを決めた。	それぞれのグループがめあてにむかって協力しながら玩具について工夫した。	めあて・振り返りカードにグループで決めためあてに対する自己評価、活動での気づきや思いを表した。

④ 活動全体を振り返る

(活動名) 活動全体を振り返ろう

(ねらい) 授業者から一人一人のよさを伝えてもらい、これまでの活動における自分のよさに気づき、自信をもち、今後自分がやりたいことにチャレンジしようとする意欲をもつ。

(授業の概要)

学習の流れ	【振り返る過程】
	活動内容や気づきを整理して表す ⇄ 活動内容や気づきを伝え交流する
主な学習活動	この単元におけるそれぞれの活動について、子どもと教師が話し合いながら共に振り返った。次に、子どもたちはそれぞれの活動における気づきをファイルしためあて・振り返りカードを読み返しながらい出し、発表した。そして、今日のフェスティバルに参加したお客さんからの感想を聞き、めあて・振り返りカードに、自分への気づき、学びに関する感想、これからチャレンジしたいこと等を表し、お互いに発表した。

(5) 検証授業の考察

各授業で継続的に使用した振り返りカードの中の項目「めあてをもって根気よく活動できましたか」に対する回答の結果を図7に示す。第3時間目以降は殆どの子どもが「よくできた」と評価していた。

8時間とも「よくできた」と評価する子どもは13名

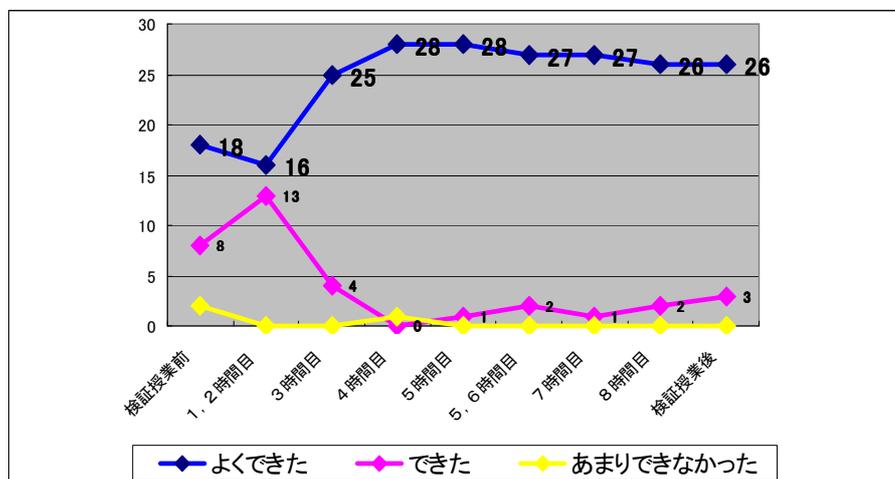


図7 意欲に関する自己評価

であった。この結果から子どもたちはめあてに向けて根気よく活動できたと実感していると考えられる。

次に検証授業の前後に同じ項目で実施した意識調査に関する考察を述べる。図8に示すように検証授業を通して「生活科がとても楽しい」という子どもが13名から20名に増え、その理由として「むずしいことがあるから楽しい」「できるかどうか心配だけどできた」といった達成感をあげている子どもがいた。このことから【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】を取り入れたことで、子どもが問題意識を明確にして意欲的に活動できたとと思われる。また、図9に示すように「振り返りが好き」という子どもが7名から14名に増え、「あまり好きではない」という子どもはいなくなったことから検証授業において、コンピュータを活用したり、友だちとかかわることなど振り返りの場の在り方や支援に関して工夫したことが、子どもたちが主体的に取り組む振り返りの場とするために効果があったと考える。

子どもがやりたいことを問題（めあて）にして根気よくできたかどうかに関して図10と図11から考察した。やりたいことをめあてにしてよくできている子どもが24名、めあてに向かって根気をもって、よくできている子どもが25名へと検証授業を通して増えた。このことから検証授業は子どもの学ぶ意欲（子どもが〇〇したいという思いや願いをもち実現するために行動しようとする態度であり、持続性を伴うもの）を培うために効果があったと考える。

図12から子どもの自分への気付き（上手になった、わかった、自信ができたと感じることがあるか）を考察した。「たくさんある」という子どもが検証授業を通して12名から21名に増えている。検証授業において教師が子どもの振り返りの内容を見取り、「よく気がついたね」「すごい発見だね」と、評価しながら返したり、一人の気付きをクラス全体に紹介したりすることは子どもが自自分の学びや成長に気付くことができる要因の一つになったのだと思われる。

また、図13に示すように「生活科で学習したことを続けてやりたいことがあるか」については、「たくさんある」という子どもが検証授業を通して、7名から15名にふえている。子どもが続けてやりたいこととして記述していた内容には、生活科の活動の発展、国語科や算数科に関連するものがあつた。このことから、子どもが生活科を通して得た自信や達成感は他の教科の学習意欲へと発展

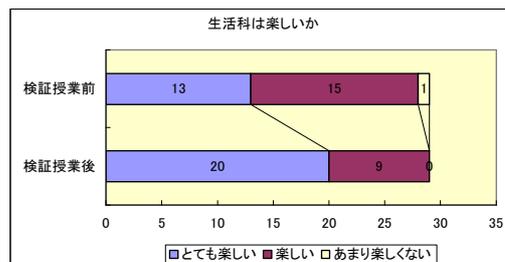


図8 意識調査

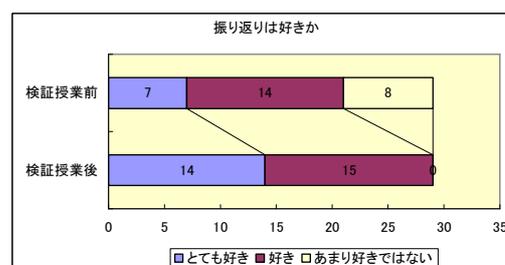


図9 意識調査

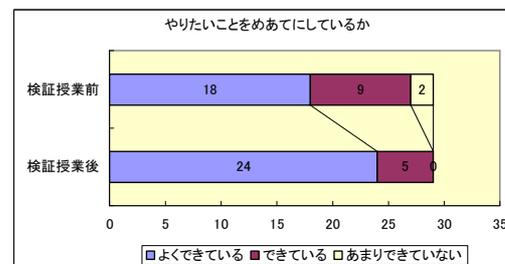


図10 意識調査

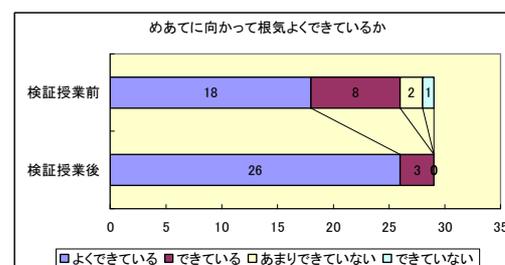


図11 意識調査

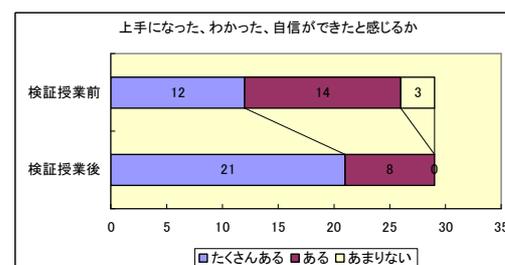


図12 意識調査

する価値があると思われる。

以上の考察から検証授業を通して、子どもたちは自分の思いや願いに向かってやり遂げたという実感や自信をもち、学ぶ楽しさがわかり、「もっとやりたい」という意欲をもつことができたと考える。そして、研究仮説をある程度実証することができたと考える。

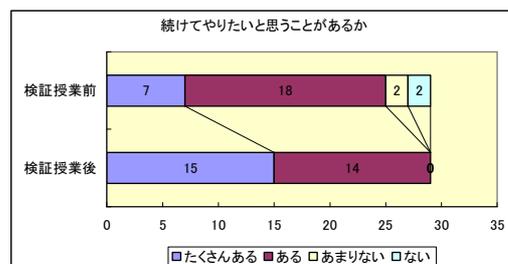


図 13 意識調査

## 6 成果と課題

本研究における成果の1点目は、生活科の学びの過程に【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】を取り入れ、3種類の振り返りの場の目的を明確にもって支援や評価を工夫したことにより、子どもたちが活動に関する自分の願いを実現できたことである。子どもたちは自分の思いや願いからめあてを決め、友だちとかかわりながら、振り返りを生かし、意欲をもって活動を続け、深めることができた。2点目は個人票の作成・活用に関することである。子どもたちの振り返りカードの内容を個人票としてまとめ、支援を予測することにより一人一人の活動状況に合った支援をすることができた。そして、振り返りカードに表された子どもたちの気づきを評価し、価値付けて返すことにより、子どもたちの気づきが知識や認識として定着することを促したと思われる。

こうした学びの過程と支援により、子どもたちは、活動に関する思いや願いが実現し、学び方が身に付き、知識を獲得し、自信をもち、学ぶ楽しさを味わい、さらに「もっとやりたい」という気持ちを抱いた。これらが「学ぶ意欲」の要素となったと考える。そして、子どもの学ぶ意欲を培うことを目指して授業を構築し、支援や評価の目的を明確にしなが工夫・改善したことは、生活科教育の今日的な課題を解決するための方策として効果があったと思われる。

一方、課題として捉えたことを2点あげる。まず1点目は個人票の簡素化である。今回の検証授業では振り返りカードにおける子どもたちの記述をほぼすべて個人票に整理したが、大変時間のかかる作業であったことから、要点をまとめて整理する方法について今後考えていきたい。2点目は、【振り返りに視点を当てた問題解決的な学習の基本的な流れ】に関して、発達段階や単元の特性を考慮すること、活動のどの段階でどのような振り返りの場を取り入れたら子どもにとってより効果的な振り返りの場となるのか、検討を続けることである。今後も実践的な研究を続け、子どもの学ぶ意欲を培うことができる授業の構築を目指したい。

## 7 おわりに

本研究を通しての私自身にとっての成果は、生活科のすばらしさを改めて実感できたことである。いつまでも、子どもの思いや願いを見取り、子どもの主体的な学びを支援する教師でありたい。

### 【主な参考・引用文献】

嶋野道弘 著「ちょっとチェックを 生活科学習指導論」東洋館出版社 1990年

財団法人学校教育研究所「教育時評No6 意欲の高め方」 2005年

無藤隆 著「自ら学ぶ子を育てる」金子書房 1998年

加藤幸次 著「学びの支援の上手な先生」図書文化 1999年

嶋野道広 編著「最新 評価実践の提案」三晃書房 2003年

北尾倫彦・万代る里子 編著「生活 観点別評価実践事例集」図書文化 2003年

群馬県総合教育センター「研究報告集 第199集」 2002年

木村吉彦 著「生活科の新生を求めて～幼小連携から総合的な学習まで」日本文教出版2004年

無藤隆「体験が生きる教室 個性を伸ばす学習・表現・評価」金子書房 1994年